

学校読書活動の取組【綾部市立吉美^{きみ}小学校】

1 研究主題 「ことばの力を培い、豊かな心をはぐくむ図書館教育
－実感・必要感のある図書館活用教育を目指して－」

2 学校の概況や児童生徒の様子等

本校の児童数は平成 10 年度の 46 名から急増し、平成 22 年に 282 名とピークに達した。しかし、近年は減少の傾向をたどり平成 30 年度は、全 11 学級（特別支援学級 2 学級を含む）で児童数は 208 名となっている。家庭や地域は、学校の様々な取組に協力的で、家庭読書や読書ボランティア等への協力も得やすい。

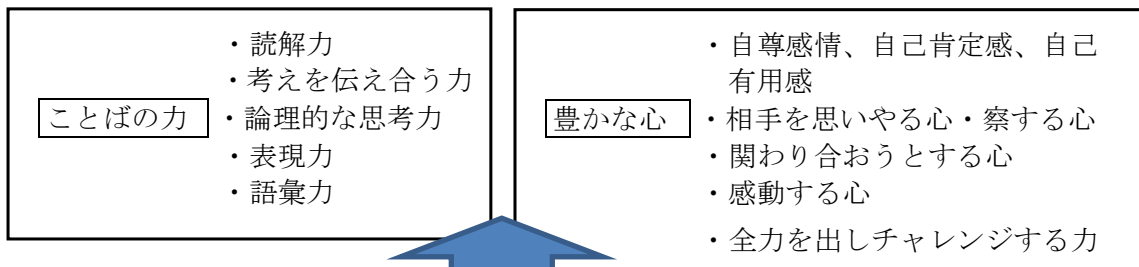
児童は、読書が好きで、多くの児童が本校の「なないろ図書館」に行き、読書をしたりじゅうたんコーナーで友達と絵本を読んだりしている。



本校は、平成 27 年度より「京都府小学校教育研究会図書館教育部研究協力校」としての研究指定を受け、研究主題を「ことばの力を培い、豊かな心をはぐくむ図書館教育－実感・必要感のある図書館活用教育を目指して－」として研究を進めた。国語科を中心とした図書館活用教育を推進するだけでなく、学校図書館の環境整備や読書活動を充実させることで、児童に主体的に読書をしようとする態度や豊かな教養を身に付けさせるように取り組んできた。

3 実践内容

(1) 研究主題における児童に身に付けさせたい力



【吉美小スタンス】

本校の児童の実態を分析し、「ことばの力」と「豊かな心」の 2 つの柱から、それぞれ 5 点を設定して児童に付けさせたい力の重点とした。このように、児童の実態からスタートして考えることを「吉美小スタンス」と言い、研究の基本的な方針とした。

(2) 研究仮説（まなび授業部・わくわく図書部・いきいきことば部）

【仮説 1】 「綾部市の『あい』のある学習」、パフォーマンス評価の手法、身に付けさせる資質や能力を明確にした授業構想により、読解力や情報活用能力、協働し解決する力を向上させることができるのではないか。（まなび授業部）

【仮説 2】 図書館の環境整備や読書活動を充実させることにより、読書への関心・意欲・態度を高めて読書習慣を形成し、豊かな教養を身に付けさせるとともに心の醸成を図ることができるのではないか。（わくわく図書部）

【仮説 3】 相手意識・目的意識を明確にした表現活動・集会活動により、伝え合う力・語彙力・表現力等の「ことばの力」を高めることができるのではないか。（いきいきことば部）

(3) AQ（永久）読書の推進

○積極的読書（A g r e s s i v e）・・・児童の実態や課題、興味・関心、発達や時期等に即して行う読書

○アクティブ読書（A c t i v e）・・・思考・判断・表現を伴う読書

○質の高い読書（Q u o r i t y）・・・児童の読書の幅を広げるような読ませ方、目標を達成するための効果的な読ませ方

AとQを合わせて「AQ（エーキュー）読書」と読んでいる。このAQには「永久」の意味も兼ねており、生涯に渡って図書資料を効果的に活用し、読書に親しもうとする態度を養うことをねらっている。

(4) 研究各部の取組

ア まなび授業部の取組

(ア) 研究のサイクル（研究授業 年間1人1回）

事前研究会は、①グループ学年研究会→②全体研究会→③セルフ模擬授業の3ステップで行う。事後研究会ではKJ法を用いて授業の成果と課題を整理する。研究会後には、まとめ新聞を発行し、次の授業研究会につなげる。

(イ) 授業づくり、授業力向上の取組の工夫

- ① 導入時に「必要感」を持たせて学習課題を捉えさせ、まとめ時には学習内容が身に付いた「実感」を児童が持てるようにして、児童の「変容」がある授業づくりを目指す。
- ② 指導目標の達成に効果的な図書資料を活用する。
- ③ 図書資料の効果的な活用を図り、身に付けさせたい力を確実に定着させるための単元設定ができる「単元構想シート」を開発し活用する。

イ わくわく図書部の取組

(ア) 学校図書館の整備

学校図書館の名称を「なないろ図書館」に変更した。また、書架を移動し、日本十進法分類に従い整理し、別校舎には「なないろミニ図書館」を分館として整備した。

(イ) なないろ図書館を活用した授業

指導のねらいを明確にし、図書館で授業をする目的を明確にして活用する。（国語科・生活科等）

「なないろ図書館」を活用した授業



(ウ) 様々な読書活動

お楽しみ読み聞かせ、なかよし読み聞かせ、読書バイキング、ブックトーク、図書委員会の読み聞かせ、読書まつり



お楽しみ読み聞かせ



ブックトーク



なかよし読み聞かせ

(エ) PTAと連携した取組

家庭読書「てのひら文庫」、PTA図書の日、PTA向けの特設コーナー

ウ いきいきことば部

(ア) ことばの力を高める集会活動「いきいきことば朝会」

学習したことやことばに関係した内容を学年ごとに発表する。分かりやすく工夫して伝え、互いの考えから学び合うことをめあてに行っている。

(イ) スピーチ活動

各学年の取組を一覧表に整理し、付けたい力を系統的に育めるようにした。学校全体としての課題である「伝え合う力」をさらに高めるために取り組んでいる。

(ウ) 言語感覚を高める掲示・取組



児童のことばへの関心や「ことばの力」を高めるため、廊下や昇降口にことばに関する掲示物や児童作品を掲示する。

(エ) 外部との連携

新聞記者、俳人、人形劇団等を招聘し、表現の心構えや手法を学ぶ機会とする。

4 成果と課題

○ 指導目標達成のための図書資料の活用の在り方、「実感・図書館・必要感」のある単元構想、授業構想、吉美小パフォーマンス課題の設定等について、効果的な手法をシステム化することで単元で身に付けさせたい力を付けることができた。(仮説1)

○ 「読書が好き」という児童は毎年90%以上を達成(児童アンケートの結果)している。(仮説2)

○ 図書資料を活用することの効果や魅力を児童が実感してきており、図書資料を扱うことに積極的になった。(仮説2)

○ なないろ図書館の利用児童数と利用頻度が増加した。(仮説2)

○ 相手意識・目的意識を明確にした学習活動や、様々な読書活動を通して、伝え合う力等の「ことばの力」や相手を思いやる気持ち、学年をこえた仲間意識等が以前より向上した。(仮説3)

● 国語科を含めた複数教科での図書館教育の充実を図る。(仮説1)

● 不読率の解消と読書量のさらなる向上を目指す。(仮説2)

● 小中一貫教育の視点で、発達段階に応じた身に付けさせたい「ことばの力」を明らかにして、系統的に力を高める。(仮説3)



図書委員会の読み聞かせ



読書ハイキング